

『歴代寶案』校訂本第8冊の刊行に際して

沖縄県教育委員会教育長 安 室 肇

琉球と中国との進貢・冊封の関係は、沖縄の歴史の形成に大きな影響を与えてきました。一三七二年、中国の洪武帝は琉球へ使者を派遣して、明国の建国を告げ、入貢を促してきました。これに応えて琉球国中山王察度は、弟の泰期を派遣して進貢品を納めました。こうして中国との進貢貿易、正式の国家間交渉が開始されたのです。以来、明治初年にいたるまで、約五〇〇年間に及ぶ親密で長い交流の時代が続きました。琉球は、この中国との進貢貿易を軸にして、また日本、中国、韓国、東南アジア諸国とほぼ等距離にある地理的条件を生かし、十四世紀末からおよそ二〇〇年にわたり、朝鮮国やシャム・パタニ（現在のタイ）、マラッカ（現在のマレーシア）、スマトラ・パレンバン・スンダ・ジャワ（以上現在のインドネシア）、安南（現在のベトナム）等の国々と交易を行い、これらの国々の政治、経済、文化等の影響を受けながら、東アジアの一大貿易国家へと発展しました。

これらの国々と交わした外交文書は、原文書あるいは写しや控えのかたちで外交を専任する久米村の天妃宮に保管されてきました。しかし、長い年月の間に、これらの筆写文書や控文書も破損・散逸の恐れが生じたため、王府は久米村にその編集を命じました。こうして一六九七年に『歴代寶案』第一集四十九冊が二部作成され、首里王府と久米村にそれぞれ保管されることになりました。この第一集には、一四二四年から編集時点の一六九七年までの外交文書が収録されています。その後、一六九七年から一八六七年までの琉球・中国間の往復文書は、『歴代寶案』第二集二百冊、第三集十三冊として編集され、ほかに別巻八冊（うち、二集目録四冊）が編集されています。しかしながら、『歴代寶案』の王府本は、廃藩置県の際に明治政府に引き継がれたといわれますが、現在その所在は不明です。また久米村に保管されたものは、一九三三年（昭和八）に旧県立図書館に移管されましたが、去った沖縄戦で散逸しました。幸いなことに旧県立図書館に移管された久米村から数種の影印本と写本が作成され残されていました。

沖縄県は、一九八九年（平成元年）から、これら現存する影印本や写本を元に『歴代寶案』の編集事業に着手し、一九九一年（平成三年）から刊行を開始しました。この編集事業は、現存する影印本、写本および関連史料を校合、校訂して、『歴代寶案』の原本

に近い校訂本を作成し、併せて一般に普及するための訳注本等も編集、刊行する計画です。これにより、今後の歴史研究に大きく寄与できるものと期待しています。

一九九一年（平成三）三月、沖縄県教育委員会と中国第一歴史檔案館との間で締結された覚書も、『歴代寶案』の編集事業および琉球、中国交渉史研究の発展に大きく寄与しています。すなわち、中国第一歴史檔案館蔵の琉中関係檔案史料が発掘、提供され、また一九九二年（平成四）から、沖縄と北京で交互に開催されている「琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」もすでに四回を数えています。

本年度は沖縄県歴代宝案編集委員会および同調査委員会の御尽力により校訂本第八冊（第二集巻九〇～一〇四）を刊行することになりました。内容としては、一七九九年（嘉慶四）から一八〇八（嘉慶十三）年間の進貢、接貢、謝恩、中国船の漂流、琉球漂流民の送還等の貴重な中国との往復文書が収録されています。ちょうど一八〇〇年（嘉慶五）は尚温、一八〇八年（嘉慶十三）は尚灝の冊封の年にとり、冊封使来琉等の冊封関連の史料も含まれております。また欠巻であった巻一〇三については、関係史料から九文書を復元することができました。県民をはじめ研究者の間で広く活用され、本冊の刊行が今後の沖縄の歴史研究の一助となれることを願っております。

最後になりましたが、本年度の校訂本の刊行につきましては、校訂を濱下武志先生に担当していただきました。また、校訂協力者の先生方、影印本、写本および関連史料を所蔵する国内外の各機関には多大のご協力をいただきました。深甚なる感謝を申し上げます、刊行のこ

とばといたします。

一九九八年（平成十）十一月